

## \* 手書きの文字

幼少期の子ども達が私にくれた手紙（メモやカードも含む）は、今でも大切にとってあります。それらを書いた時期にお気に入りだった絵柄やイラストが描いてあることが多く、私にとって、まさに一点物のオリジナル作品だからです。文字もひらがなやカタカナが混じっていたり、濁点の位置が違っていたりするのですが、それがなんともかわいらしく感じられます。覚えてたの文字や言葉で一所懸命に書いてくれた文章なので、なんとかして自分の気持ちや考えを伝えようとする熱意すら感じます。

最近、私は幼い子ども達のように一所懸命に文章を書くことが少なくなってしまいました。そのため、はがきや手紙を書こうとすると簡単な漢字が思い出せなかったり、送り仮名があやふやだったり、文字のバランスや行間が整わず本当につかりすることがあります。

それでも誰かに大切なことを伝えたいと思った時は、手書きで手紙やはがきにしたいためようと思います。手書きの文字にはその人特有の個性があり、確かにその人が自分のために書いてくれたのだという実感があるからです。

私の恩師は、私が書いた報告書のひとつひとつに丁寧に目を通し、修正すべき箇所や勉強しておくべき関連事項があれば、付せんに手書きのメッセージを書いて返却して下さる方でした。そして修正した報告書を持っていくと、付せんに書かれていた内容についてさらに口頭で指導して下さいました。今でもその付せんの文字を見ると、感謝の気持ちでいっぱいになります。

今では子ども達も大きくなり、連絡はもっぱら携帯電話のメール機能や無料通信アプリケーションを使うことが多いのですが、親として心に留め置いてほしいことはこれからも手書きの文字で伝えていきたいと思います。

